

学生「食べない日も」

愛媛 食料支援で窮状切々

コロナ禍に苦しむ学生たちを応援しようと日本民主青年同盟愛媛県委員会は8日、8回目の学生生活支援プロジェクト「食材もってけ市」を松山市の愛媛大学付近のレンタルスペースで開催しました。91人の学生が訪れ、支援者の提供する食材や日用品を喜んで受け取っていました。



検温などの感染対策をおこない、実施された「もってけ市」＝8日、松山市

今回は、松山市が「まん延防止等重点措置」指定区域のため、混雑しないよう、いつ来ても食材を受け取れる完全予約制で実施。事前に配布したチラシやSNSで予約を呼びかけました。

参加した学生たちは、繰り返す時短営業の影響で「シフトが半分に減り、大きなダメージです」（収入が）月2万円は減りました。節約の毎日」と

口々に窮状を語り、手渡される食材に「ありがたい」「本当に助かります」と感謝していました。

初めて利用した2回生の女性（19）は時短要請の影響で「バイトに全然入れません。収入が減り、1日何も食べない日もありました」と話しました。

今年度初の開催とあって新入生の姿も多くみられ、「オンラインの授業ばかりで学生同士の交流もなく、大学生活がはじまった気がしない」「バイトが見つけられません。生活費のために必要なのに」と苦境を語っていました。